

気候変動にいかに対処すべきか。



熱中症を防ぐには

- (1) 暑さを避ける
- (2) こまめに水分補給
- (3) 急に暑くなる日には要注意
- (4) 暑さに備えた体作り
- (5) その日の体調にも注意
- (6) 集団生活ではお互いの配慮



災害から身を守るには

- (1) 気象情報や空の変化に注意
- (2) 飛ばされそうな物は固定
- (3) 停電や断水に備えて準備
- (4) 避難場所・避難ルートの確認
- (5) 非常持ち出し品の用意
- (6) 高齢者や子どもへの配慮



出典・資料

- 1) 気象庁(2014)気候変動監視レポート2013
- 2) 消防庁(2013)平成25年夏季(6月～9月)の熱中症による救急搬送状況をもとに作図
- 3) 国土交通省(2014)水害統計調査をもとに作図
- 4) 気象庁(2013)地球温暖化予測情報第8巻
- 5) 茨城大学・国立環境研究所(2014)温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究2014報告書
地球温暖化「日本への影響」－新たなシナリオに基づく総合的影響予測と適応策－
- 6) 環境省(2014)熱中症環境保健マニュアル2014

※本リーフレットは公益財団法人旭硝子財団(環境研究 近藤次郎 Grant)の助成により、神奈川大学にて制作したものです。

変わる気候 増える災害

～これからの気候にいかに対処すべきか?～



極端な気象現象の増加とその影響。



猛暑日の増加

最高気温が35℃を超える猛暑日が増える傾向にあります。
1900年代半ばごろの猛暑日は全国13地点で平均年間1日程度でしたが、**近年**は年間2日程度と**倍増**しています。



地球温暖化の進展

熱中症患者数は毎年5万人に。

近年、熱中症により救急搬送される人の数は毎年5万人前後にのぼります。熱中症は、暑い日の運動や労働のときだけでなく、近年は日常生活においても発生しています。



非常に激しい雨の増加

1時間に50mmを超える非常に激しい雨が増える傾向にあります。
30年前には年間170回程度(1000地点あたり)でしたが、近年は、**年間230回**近くになっています。



地球温暖化の進展

浸水による被害額は年間約1000億円

堤防の決壊や堤防を越えて水があふれるなどの洪水や住宅地などで排水が困難になることなどで生じる浸水による被害額は、**年間1000億円以上**にもなります。

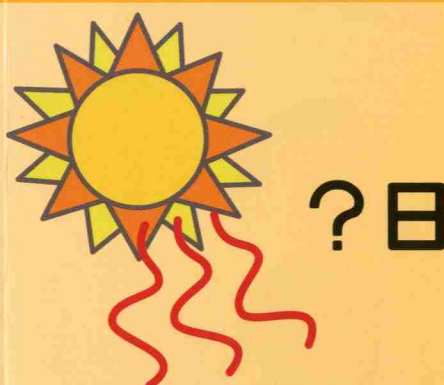
1000億円以上



そして更なる気候の変動と被害の拡大。

気になる未来を動画でチェック!

最新科学が予測する 未来の気候を
気象キャスターの
奈良岡希実子が
動画で解説します!



◀ QRコードからURLを取得して
『**みらい天気**』**サイト**に進み、
それぞれの動画をご視聴下さい。

※パケット通信料は利用者負担となりますので、
パケット定額サービスでのご利用をお勧めします。

『みらい天気』サイト

サイトでは、未来の気候の動画のほかに、横須賀市の気候や災害関連の情報サイトをリンクしています。
例えば、横須賀市の熱中症発生状況(6月～9月)や土砂災害ハザードマップ、避難所一覧などです。万一の時の情報源として活用してください。



QRから見られない場合は、こちらから
⇒ <http://univ.kanagawa.jp/mirai-tenki/>